

さっぱりいいとこなしの日本経済の中、日本が成長戦略の柱と位置づけ、官民で受注強化に取り組んできた鉄道インフラ輸出が大ブレイク中だ。

3月頃より東芝や川崎重工による韓国や台湾の鉄道公社からの受注が続き、特に5月の「700系新幹線」ベースの高速鉄道車両の190億円での受注を始め、住友商事がベトナムで同国初となる都市鉄道建設工事を626億円で現地ゼネコンと共同受注したことや、丸紅がフィリピン大手建設会社D.M.コンサルジ社と組んで、マニラ首都圏の高架式都市鉄道建設契約を800億円で受注するなど絶好調だ。さらに7月には鉄道発祥の国である英国で日立が、高速鉄道更新計画で車両と27年半の保守事業を5500億円！で受注。これは日本のインフラ輸出としては過去最大である。契約まで3年半もかかったが政府も企業も飛び上がって喜んだらしい。

実は世界の鉄道は、独シーメンスと仏アルストム、カナダのボンバルディアの“ビッグ3”による独占状態が続くが、この度オールジャパンが風穴を開けたのだ。実に気分がいい。聖書には劣勢の軍隊で大軍を向こうに回して、神の力で大勝利したヨシャパテ王（BC850年頃）の記述がある。

**「『主に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。』彼らが喜びの声、賛美の声をあげ始めたとき、主は伏兵を設けて、ユダに攻めて来たアモン人、モアブ人、セイル山の人々を襲わせたので、彼らは打ち負かされた。」Ⅱ歴代誌 20章 21-22節**

と見ての通り“ビッグ3”を蹴散らした。面白いのは彼らが、勝ってからではなく勝つ前に喜びの声をあげて勝利したことだ。“いいことあってから”ではなく、先に神に感謝して勝つことが「信仰」であるが、うつむきがちな今の日本が、神に感謝して勝ち続けることを願う。

2012-11-30

